

「オーストラリア職員研修」報告書

帝京科学大学 東京西事務室 教務第2係
小松 由依

① 研修機関／講義内容について

●研修機関（Edith Cowan University (ECU)）について

西オーストラリア州パースにある公立大学です。大学名にある Edith Cowan はオーストラリア初の女性議員で、教育や社会改革に大きな功績を残した人物です。彼女の理念「教育を通じて社会を良くする」を受け継ぎ、包括性・公平性・教育の質を重視する大学として設立されました。前身は1902年設立の教育養成カレッジです。

○設立：1991年

○キャンパス：国内3か所、海外1か所

国内：ジョンドラップ、マウントローリー、サウスウエスト

海外：スリランカ

○学部：8学部、330コース以上

芸術&人文学部

ビジネス&法学部

エンジニアリング&テクノロジー

サイエンス

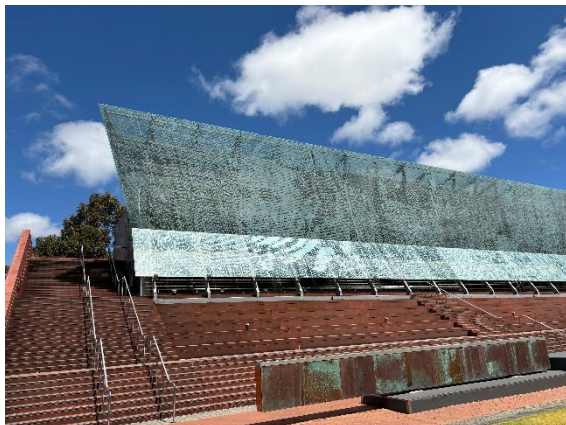
医療&健康科学

看護&助産

教員教育

WAPPA（演劇・音楽・ダンス等）

Times Higher Education（THE）世界大学ランキングで上位に位置しており、特に Teaching（教育の質分野）で高評価を得ています。また、QILT（豪政府公認の Student Experience Survey）による評価では、全体的な学生体験において国内の公立大学でトップ評価を受けています。学生満足度も非常に高いです。



●講義内容について

研修期間中、13 個のプログラムや ECU キャンパスツアーで大学の取り組みや施設について理解を深めました。

① 大学運営・ガバナンス

〈プログラム〉

- ・ Academic and Quality Standards
- ・ Planning and performance reporting
- ・ Governance, Legal, and Compliance
- ・ Campus Management and Security
- ・ ECU CITY Campus development

〈内容〉

- ・ 教育の品質確保：法令遵守と高水準の教育維持
- ・ 戦略計画の共有：全職員の認識と外部報告
- ・ コンプライアンス徹底：信頼性と透明性の確保
- ・ 学内セキュリティ強化：予防から事故後対応まで
- ・ 新キャンパス開設（2026 年）：誘致・デザイン・地域連携

〈感想・学び〉

業務が明確に定められ、マニュアル化されていることで、国の方針や法律に沿っているかを細やかに確認できている点が印象的でした。こうした仕組みが大学の信頼性につながっているのだと思います。特に印象に残ったのは、政府の方針にただ従うだけではなく、必要に応じて反発する姿勢です。例えば、政府から特定の科目の設置を求められても、大学として不要と判断した場合は、その理由を明確に説明し、科目の廃止を検討するとのことでした。これは、良い大学にするため、ECU らしい大学を維持するためにどうすればよいか常に念頭にあるからだと感じました。

② 国際教育・留学生戦略

〈プログラム〉

- ・ Managing International Programs and Agreements
- ・ Adapting to Australian Government Policy
- ・ Transnational Education (TNE) & ECU Sri Lanka
- ・ International Student Recruitment

〈内容〉

- ・ 戦略的パートナーシップ：交換留学を通じた大学間連携
- ・ 国際教育の活用：主要産業であるオーストラリアでの留学生募集
- ・ TNE 推進：国境を越えた教育展開によるグローバル化
- ・ 留学生募集強化：多様な地域からの学生獲得戦略

〈感想・学び〉

オーストラリア政府、ECU の双方にとって、国際教育や留学生の確保は単なる教育効果にとどまらず、重要なビジネスチャンスであることを強く感じました。留学生の受け入れや、ECU の学生の留学先へのアテンド、人員管理、事務手続きなど、複雑な業務をミスなく迅速に進めるために、業務フローがしっかりと整備されていました。さらに印象的だったのは、どの大学と提携することが自大学の利益につながるかを戦略的に考え、パートナーシップを結んでいる点です。単なる提携ではなく、大学の価値を高めるための選択が行われていることに感銘を受けました。

③ AI 活用

〈プログラム〉

- ・ Higher Education Management in the age of AI

〈内容〉

- ・ AI の不可避性：無視できない存在、最大限活用する方法を検討
- ・ プロンプトの重要性：効果的な指示で精度を高める
- ・ 教育現場での活用：AI 時代に対応した教育の革新、授業評価の再考

〈感想・学び〉

年長者（教員や経営層）は新しい技術の導入に抵抗を示す一方、若者（学生や若手職員）は積極的に活用し、習得も早いことは、日本だけでなくオーストラリアでも同じだと感じました。また、生成 AI を使ってレポートを作成する問題も起きており、こうした課題はどの国でも共通しているのだと思いました。今回の講義では、生成 AI を排除することは不可能であり、どのように活用し、共存していくかを考える内容でした。私自身、私生活や仕事で生成 AI を活用していますが、最大限の効果を引き出すためには、どのようなプロンプトを出すか、どのツールを使うかが重要であるという話が非常に興味深かったです。この点について、今後さらに学んでいきたいと思いました。

④ 学生支援・ウェルビーイング

〈プログラム〉

- ・ Wellbeing at ECU
- ・ Student Support Timetabling

〈内容〉

- ・ スタッフのウェルビーイング向上：生産性向上につながる取り組み
- ・ 継続的施策：毎月のテーマ設定や情報提供など多様な活動
- ・ 学生支援の強化：学業・生活・メンタル面を包括的にサポート
- ・ Student Guild の役割：学生の声を反映した大学運営

〈感想・学び〉

従業員のウェルビーイングを支援することで生産効率が向上し、ウェルビーイングへの投資 1 ドルあたり最大 6 ドルの節約につながると数値化されている点が非常に印象的でした。また、「スタッフの人生が充実していなければ、学生に良いサービスを提供することはできない」という言葉にも強く共感しました。

日本では「つらい思いをして一生懸命努力し続けた先に成功がある」という考え方があります。その考え方も共感できる一方で、業務上不必要な努力や苦しみも存在するように感じます。仕事のモチベーションやパフォーマンスを高めるために、必要な努力と不要な努力をどう見極めるか、今後考えていきたいと思いました。

⑤ ブランド戦略・マーケティング

〈プログラム〉

・ Marketing in an Australian University

〈内容〉

- ・ 理念・方針の共有：すべての人に ECU の価値を伝える方法を模索
- ・ ブランド刷新の取り組み：新しいロゴ完成までの道のりと戦略

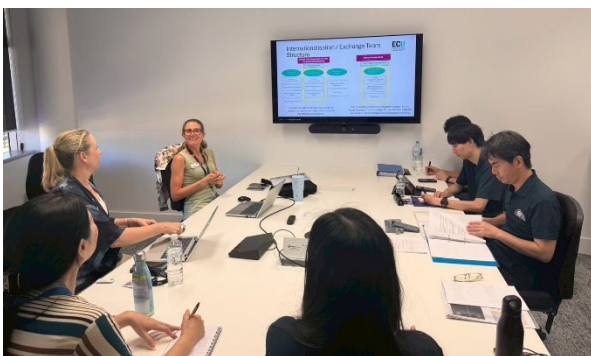
〈感想・学び〉

入学予定者だけでなく、保護者・企業・地域の人など、すべての人に ECU の理念や方針を伝えているという話が印象的で、誰から見ても「ECU はこういう大学だよね」と言わせることのできる強みを感じました。また、ブランドコンセプトについて自信を持ってお話されていたので、「どのようにコンセプトを決めているのですか？」と質問したところ、リサーチをベースにしているとのことでした。だからこそ、自信を持って発信できるのだと話していました。主張や戦略が「感覚」ではなく「事実」に裏付けられることで、説得力も増し自信につながっていると思いました。

●ECU で講義を受けて全体の感想・学び

様々な部署の業務内容や取り組みを伺いましたが、「利益の追求」「大学の方針・目標の共有」「業務分担表の整備」という点は、どの部門にも共通していると感じました。ECU は自らの立ち位置が明確で、大学が目指すべき方向性ははっきりしており、そのために何をすべきかが具体的に示されています。すべての取り組みが大学の利益につながっているという、非常にわかりやすく整った流れだと思いました。まずは、本学でも大学の方針や目標を学内で共有できるようにしたいです。

また、説明して下さったスタッフ全員が、ECU や自分の仕事に誇りを持ち、自信を持って前向きな姿勢で取り組んでいたことが印象的でした。本学にも課題や改善点は多くありますが、良い部分もたくさんあるはずで、教職員が大学を誇りに思う気持ちは、学生や企業、地域の方など周囲にも伝わると思います。私自身も、そのような前向きな姿勢で仕事に取り組み、周囲を巻き込んでいきたいと思っています。



② 歴史・地域文化について

ECU の研修では、講義だけでなく州議会の見学やキングスパークの散策も行いました。さらに、フリーマントルやロットネスト島を訪れ、現地の歴史や地域文化に触れる貴重な機会を得ることができました。

・西オーストラリア州議会

西オーストラリア州の政治の中心であり、州の法律や政策が決定される場所です。歴史ある建物で、議会の仕組みや民主主義のプロセスを学びました。

・キングスパーク

世界最大級の都市公園のひとつで、パース市街とスワン川を一望できる絶景スポットです。豊かな自然と植物園があり、西オーストラリア固有の植物を観察しました。

・フリーマントル

フリーマントルは歴史ある港町で、文化と芸術の拠点として知られています。訪れた旧監獄（Fremantle Prison）は世界遺産にも登録されており、19 世紀の刑務所の歴史を学びました。

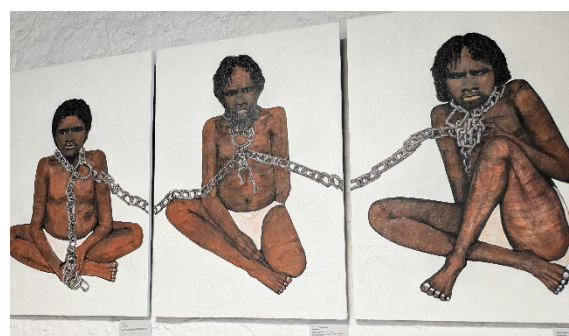
・ロットネスト島

パース沖に浮かぶ美しい島で、透き通った海と白い砂浜が広がる観光地です。島の固有種であるクオッカ（小型の有袋類）が有名で、自然と野生動物に触れられる場所です。さらに、第二次世界大戦時に建設された沿岸防衛施設が残っており、戦争の歴史を学び、島内には歴史資料館もあり、地域の文化や過去の生活を知りました。また、環境保全活動が積極的に行われており、自然と観光の共存を目指す取り組みを学びました。

〈感想・学び〉

広大な自然と美しい景色に触れ、地域の環境や文化を肌で感じることができました。日本とはスケールが異なり、その壮大さや美しい景観、植物の多様性に圧倒されました。また、歴史や文化についても考えさせられる場面が多くありました。オーストラリア先住民の虐殺の歴史、イギリスから輸送された囚人を収容していたフリーマントル刑務所、美しいロットネスト島に残る第二次世界大戦の爪痕など、重く苦しい歴史があり、その遺恨が完全に消えていない現状を肌で感じました。

ECU の研修では、日本との違いを多く実感しましたが、このように歴史的背景や文化を知ることで、なぜその価値観や行動が生まれるのかを理解でき、研修内容もより深く心に残ったと思います。様々な施設を訪れ、多くの人と交流し、現地の歴史や地域文化に触れたことで、ECU での学びをさらに充実させることができました。



③ 研修を通して全体の感想・学び

○日本との違いで印象に残ったこと

多くの気づきがありましたが、その中でも「人生を楽しむ」という考えが何度も話題に上ったことが印象的でした。ECUでは、1年の長期休暇や、趣味のための1週間の休暇取得など、休日を充実させている様子がうかがえました。しかし、決して仕事を疎かにしているわけではなく、むしろ多くの素晴らしい取り組みを行っています。これは、業務の分担や効率化の徹底が背景にあるからだと思いました。

さらに、ECUでは新しいことを積極的に取り入れ、うまくいかなければすぐにやめるという柔軟さがありました。日本では新しい取り組みに対して慎重になり、導入までに時間がかかる傾向がありますが、「まずやってみて、だめならやめる」という軽やかな姿勢は非常に魅力的だと感じました。今までは、新しいシステムを導入する前に徹底的な下調べや根回しを行い、混乱を最小限にするために多くの労力を費やしてきました。しかし、今回の経験を通じて、フットワーク軽く挑戦することの大切さを学びました。今後、新しい提案があった際には、まず「やってみる」方向で進めるマインドを持ちたいと思います。

○本学でどう応用できるか

ECUでは、大学の方針や目標を個人としてどう達成するかが明確に定められており、職員が目的意識を持ち、迷いなく働いている印象を受けました。本学では、半期ごとに個人目標を設定し振り返りますが、大学方針とのつながりが見えにくく、目標が抽象的で日常業務に反映しづらいこと、評価基準が明確でないことが課題に感じます。

ECUでは全員の取り組みを大学の戦略目標に合わせることを目的とし、大学の方針を実際どのように実行するか、学部レベル→学科レベル→個人レベルと細かく計画立てできる計画のフレームワークがあります。また計画に対する結果・評価を細かく分析しています。大きな戦略が個人レベルまで落とし込まれ、個々の成果から大学の発展へつながっていく仕組み、自分の業務の結果が可視化される仕組みが構築されていました。

ECUの取り組みから学べる点は多くありましたが、まずは職員が自分の仕事を大学の価値や利益につなげ、それが自身の充実感やキャリア形成に還元される環境づくりが重要だと思いました。教務系の立場から、大学方針やそれに沿った目標の共有、フィードバックをチームで行うところから始めたいと思います。また現場で感じる課題や学生の声を聴き、大学全体の取り組みに貢献できるよう努めたいと思います。

○まとめ

9日間のオーストラリア滞在を通じて、ECUについて学ぶだけでなく、日本との文化や価値観の違いを理解し、より深い学びを得ることができました。日本でオンライン講義を受けるだけでは、このような経験は得られなかったと思いますし、単なる旅行では現地文化をここまで深く知ることはできなかったと感じます。

今回の海外研修は、仕事に対する意欲や視野を広げるきっかけとなっただけでなく、日常生活にも前向きな変化をもたらしました。行動力やコミュニケーション能力、そしてポジティブな気持ちが以前より高まったと実感しています。これは、文化やコミュニケーション方法が異なる環境に適応する過程で、普段の思考の枠を超える必要があったからだだと思います。今後もこの経験を忘れずに、前向きな姿勢で行動力を発揮しながら、業務に取り組んでいきたいと考えています。